

<4世代の家徹底解説 7つのポイント>

1. 3世帯住宅のボリュームをどう確保するか。
2. うなぎの寝床 採光・通風をどう確保するか。
3. たくさんの居場所をつくってみた。
4. 空間に明暗、高低を取り込む工夫。
5. 多彩な素材を使用すること。
6. 緑をいつも感じる空間に。
7. 色彩の役割。

1. 3世帯住宅のボリュームをどう確保するか。

当敷地は高度斜線（北側斜線）制限があるため、まるまる3階建ができません。3階の床面積がしっかりとれませんと、3世帯住宅のためのボリュームは確保できません。

そのため、1階床を地盤から75cm下げました。この深さがポイントです。あまり深いと1階が暗くなってしまいますし、残土の処分費用や基礎の施工費用で大きくコストアップになります。さらにこれ以上深いと排水時にポンプの設置も必要となります。

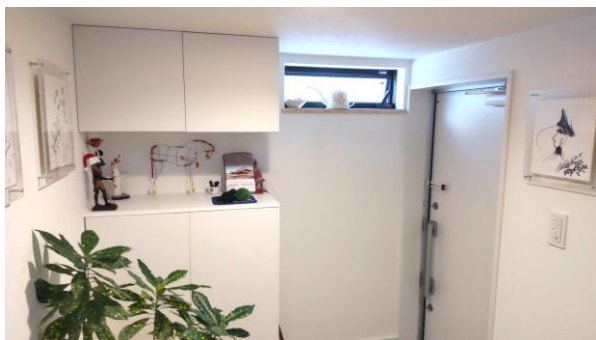
75cm下げたことにより建築基準法上は地下1階となりますが、ちょうどよい加減で1階床を下げることで、延べ140㎡の床面積を確保することができたのです。



2. うなぎの寝床 採光・通風をどう確保するか。

北側と南側に隣家が迫っているため、東西に十分な開口部を設けることにより、採光・通風を確保しました。室内の床材、クロス、建具は白を基調とし、光を拡散させ、階段や吹抜けの配置を工夫することによって、光や風の流れが生まれます。

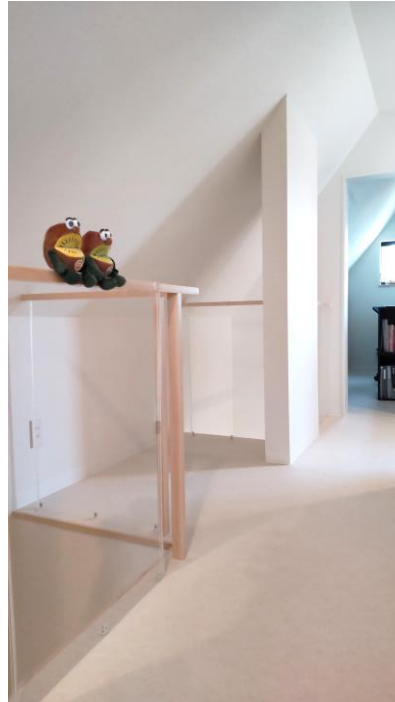
これにより、暗くなりがちな玄関や廊下、階段廻りも明るく開放的な空間になりました。



3. たくさんの居場所をつくってみた。

狭いからといって、ただ空間を区切ってしまえばつまらない空間になってしまいます。

自邸では、誰がいつどこにでもいれるようなスキマ（たまり）をたくさん散りばめました。スキップフロアー上部の踊り場とベランダ、小上がり、鉄砲階段の踊り場、2か所のバルコニー、3階斜め天井下の窪み。その時の気分によって、これら好きな場所でくつろぐことができるのです。

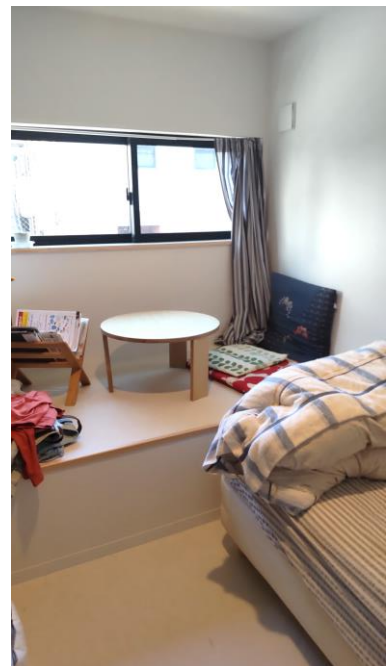
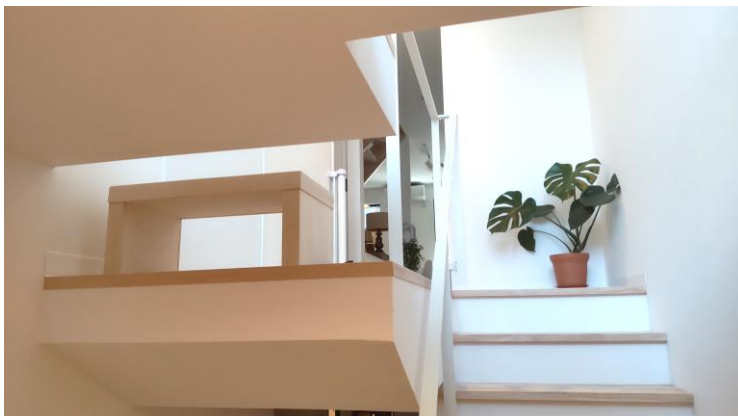


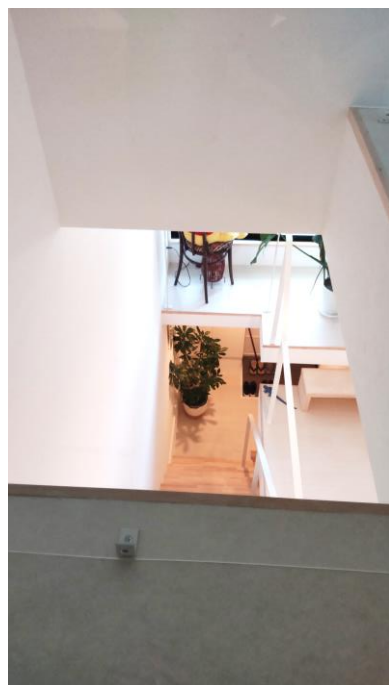
4. 空間に明暗、高低を取り込む工夫。

狭いからこそ、空間にメリハリをつける。それは明暗、高低などの対比を取り込むことです。

小上がりの天井高さは1.9mで証明ありません。それによりリビングは明るく広く感じることができます。個室や玄関上部の踊り場も同じような工夫をしております。

2つの吹抜けは2階、3階の上下の空間をつなぎ、光を通すだけでなく視線が抜けるため空間に広がりを感じることができるのです。

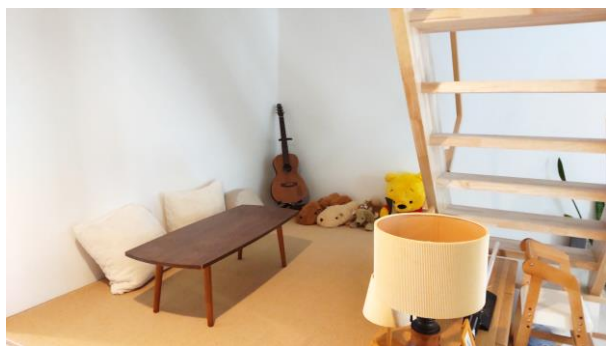




5. 多彩な素材を使用すること。

さまざまな素材を取り入れることによっても空間に動きがでできます。メインとなる2階床はフローリングを使用しておりますが、他はCFシート敷です。小上がりには天然のココヤシカーペットを使い、階段はゴムの木の積層材を使用しております。家の中では裸足で違う床材の感覚を楽しんでおります。外壁材はサイディング、手摺はスチール、土間はコンクリートと、天然と人工、本物もニセモノも対等に扱いそれらを組み合わせて豊かさを醸し出しております。



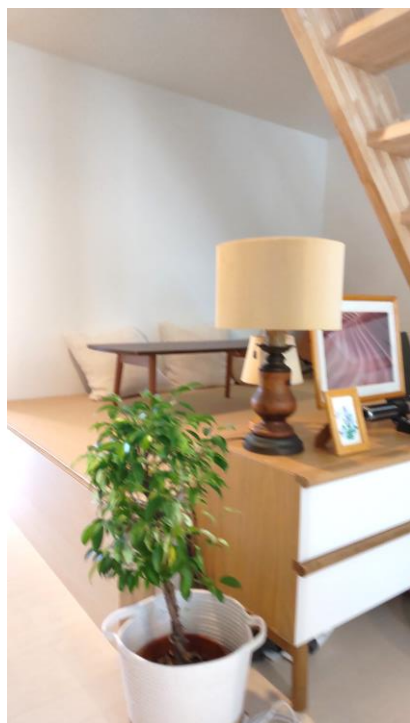


6. 緑をいつも感じる空間に。

長屋などでは家の前に鉢植えを置き、緑を楽しむ工夫が見られます。自邸では家の中のどこにいてもアイスボットに緑がくるよう、観葉植物の配置を考えました。

敷地が狭く庭を設けることができない分、部屋内ではどこにいても緑を感じることができるような工夫も、狭小住宅には必要と考えます。





7. 色彩の役割

南北は隣家が迫っているため風通しが悪く、日もあたりません。このような場所はカビや汚れの黒ずみが発生します。長いスパンで考えたとき外壁は黒のサイディングを選択しました。ただ全体が黒では変化がありませんので、くぼんでいる外壁部分は白いサイディングを、玄関ドアには赤を使いました。一方、部屋内はフローリング、壁、天井は白を基調とし、採光が反射し部屋の奥まで明るくなるようにしました。

外観は黒でシャープにくっきりと、内観は白で柔らかい、対比のある色彩としました。

